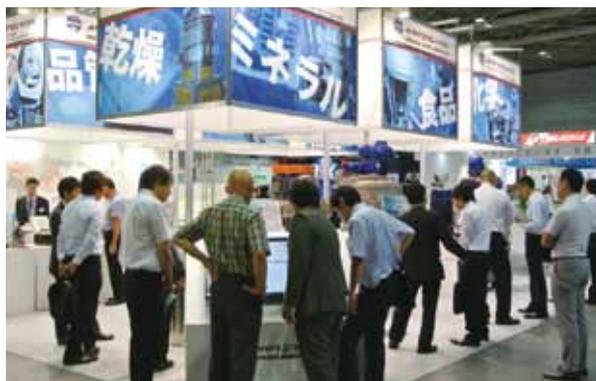


ニュース・年間行事

■2013年

○10月9日～11日「粉体工業展2013」に出展（於：インテックス大阪）

・ナノパーティクルテクノロジーを含む新製品の数々を、実機またはパネルにて展示しました。：媒体攪拌乾燥機 ゼルビス XB-LAB, 湿式造粒機 フレキシミックス FXD-160, 高温・高速气流乾燥機 ドライマイスタ DMR-1H, ロール型圧縮造粒機 コンパクト CS-25, 多機能混合機 バイトミックス VX-500, 小規模研究開発用卓上ラボ機 ピコライン picoline, 粉体特性評価装置 パウダテスタ PT-X, 乾式篩 エアージェットシーブ e200LS, 新型湿式篩 ヴィブレット VBL, 煙道用PM2.5濃度測定装置 バーチャルインパクト VI-PM2.5, 関連事業の紹介：メンテナンスサービス事業 マテリアル事業 受託加工事業 受託測定事業



粉体工業展2013展示風景

○10月16日～23日「プラスチック・ゴム製品展示会K Trade Fair K2013」に出展（於：デュッセルドルフ（ドイツ））

・ホソカワアルピネ社が、3年毎に開催される世界最大のプラスチック製品展示会であるK2013に出展しました。：最大9層からなる機能性プラスチック薄膜フィルム製造技術、工場内でのプラスチックフィルムリサイクルをはじめとする樹脂製品やゴム製品、電線リサイクル技術

○10月17日 バーチャルインパクトによる排ガス中のPM10/PM2.5質量濃度測定法がJIS化

・日本規格協会にて制定説明会が開催されました。



フィカルティ F-430S

○12月11日 [新製品] 粒子設計装置 ホソカワミクロン ファカルティSシリーズの販売を開始

・2013年12月から、当社従来機「ファカルティ」を改良して開発した粒子設計装置「ファカルティSシリーズ」の販売を開始しました。当装置は、粉碎・分級機を内蔵した粒子設計（粒子球形化）装置である従来機「ファカルティ」の特徴をさらに強化することで適用用途を広げると共に処理能力の向上を図ったものです。当装置は、粒子の球形化によって見かけ密度を高めることができます。これにより一定容積への材料の充填量を増加させることができます。

○12月20日 ホソカワ粉体工学振興財団発行の国際科学誌「KONA」が国内最大級電子ジャーナルサイト「J-STAGE」で公開開始しました。

・ホソカワ粉体工学振興財団が出版発行する「KONA Powder and Particle Journal」は既に海外の著名なオンラインデータベースSCOPUS, Web of Science, BOSCOなどに収録されていますが、この度、国内最大級の総合電子ジャーナルサイト「J-STAGE」での完全無料公開が開始されました。今回は今年号No.30 (2013)の全論文/記事を公開しました。また、KONA誌は今後、国内ではまだ十数誌しか対応して

いない国際基準XMLで全文情報を掲載することにより、粉体工学に関する情報発信のより一層の国際化と迅速化が期待できます。

○12月25日 [新製品] 慣性力型気流層式分級機ホソカワマイクロクリフィスの発売を開始

・2013年12月から、分級機「クリフィス」の販売を開始しました。当装置は、トナー製造プラントにおいて、慣性力を用いてトナーの粗粉を除去することを目的に開発された気流層式分級機です。当装置は、2011年10月に販売開始した機械式粉碎機「グラス」を組み合わせて、非常にコストパフォーマンスの高いトナー製造システムを構築することができます。



慣性力型気流層式分級機クリフィス

■2014年

○1月17日 [新製品] 分級機内臓型微粉碎機 ホソカワ/マイクロ ACMパルベライザE-ACMの発売を開始

・分級機内臓型微粉碎機ACMパルベライザに改良を加え、自動車産業において不可欠な原料であるタイヤ用カーボンブラックの品質向上処理に特化した微粉碎機として開発された「ACMパルベライザ E-ACM」の販売を開始しました。当装置は、汎用性が非常に高く、さまざまな産業分野で数多くの導入実績を有する微粉碎機ACMパルベライザの特徴を活かしつつ、カーボンブラックを用いた製品の品質を左右する原料中のグリット量（粗粒、カーボン焼成炉の壁材などの不純物）を減らす処理に特化することで、カーボンブラックにおける最新の品質要求を満たすことを目的に米国子会社（ホソカワマイクロインターナショナル）で開発されました。

○2月6日～7日「関西財界セミナー賞2014」大賞を受賞

・2014年2月6日（木）、7日（金）、京都国際会館で開催されました第52回関西財界セミナー（主催：関西経済連合会、関西経済同友会）において当社が「関西財界セミナー賞2014 大賞」を受賞しました。同賞は、「関西において、優れた技術やビジネスモデルを持ち、独自性を活かして関西の活性化に貢献している企業・団体・個人など」を表彰するものです。①長年にわたる粉体技術一筋の取り組みから開発される最先端ニーズに応える製品や技術は、独自性が高く、ものづくり産業を支える不可欠な存在となっている点、②身の回りの様々な製品に当社技術が活用され、様々な産業における新製品開発に貢献している点、③グローバル展開によって、日本だけでなく世界のものづくりに貢献している点が評価されました。

○4月4日 ドイツ子会社工場の竣工

・当社グループの欧州主要拠点であるホソカワアルピネA.G.（アウグスブルク、ドイツ）の工場第三期工事が完了し現地時間4月4日（金）に竣工式を行いました。竣工式は、アウグスブルク市の市長や商工会議所会頭らを来賓に迎えて行われました。その中で、高度な“ものづくり”によって新興国を含む世界に広がる顧客層と当社グループ会社の期待に応え続けてきたこ



ACMパルベライザ E-ACM100

とが、今日のホソカワブランドの源となっているとグループ会社を代表してホソカワミクロン 宮田清巳社長（現会長）が祝辞をのべました。

○5月8日～14日 「インターパック」に出展（於：デュッセルドルフ）しました。

・インターパックは、3年毎に開催される包装産業とそれらの関連加工技術に関する世界最大規模の国際見本市です。①食品および飲料、医薬品および化粧品、消費財（非食品）、産業財の包装処理及び包装機材、②製菓機材 加工、③包装業界および製菓業界向けサービスなどに関連した装置や技術、サービスを紹介しました。このイベントにHosokawa Bepex GmbH（ドイツ）が、キャンディやシリアルバー、ゼリーなどの製菓製造装置を出展しました。また、Hosokawa Alpine A.G.（ドイツ）、Hosokawa Micron B.V.（オランダ）もココア製造ラインなどで用いられる粉碎装置や混合・ブレンド装置などを共同出展したほか、機能性多層プラスチックフィルム製造装置の展示・実演やフィルム工場内リサイクルを紹介しました。

編集後記

東海道新幹線の開業、東京オリンピックの開催から50年目となる今年も、いろいろな事がありました。夏からのアフリカでのエボラ出血熱の流行や、日本での69年振りのデング熱患者の確認が引き続いて起こり世間を驚かせました。また、8月の大雨による大規模な広島土石災害では70人以上の死亡者が出ました。そして翌9月の御嶽山の噴火では、たまたまお天気の良い週末と重なり50名以上の死者が出ましたが、その際には数10cmもの岩石が数100m/sの速さで飛んできたとのことでその威力は想像を絶するものがあります。

一方、今年も、赤崎・天野・中村氏が青色発光ダイオードでノーベル物理学賞を受賞されるという明るいニュースもありました。この新しい材料の発明・実用化によって、LEDを使った照明はエネルギー消費を抑えながら世界を明るくしています。また、スポーツの分野では、全国高校軟式野球選手権大会の準決勝で4日間にわたる延長50回の熱戦があったり、テニスでは4大大会の一つのアメリカオープンで錦織圭が日本人として初めて決勝戦まで勝ち残るという快挙を達成しました。

これらの出来事を違った観点から見ますと、ウイルスも、土石流や噴石、半導体原料粉体、野球やテニスのボールも、微粒子や粒体とみられます。その意味で粉粒体を対象とする粉粒体工学、技術は人々の生活と密接に結びついていることを改めて思う次第です。

今年もまた秋ごろから米ドルに対し円高が進み、日経平均株価も上昇していますが、消費税が4月から8%に上昇し、10%への増額は延期となることになったものの、年末の選挙の結果によりこれから日本社会がどのように変化していくか気になるところです。そして、年々グローバル化が着実に進んでいる現代社会において、中国を中心としたアジア諸国や欧米との関わりもこれからますます強くなっていくものと実感されます。

本号は、2014年9月に東京で開催された第48回粉体工学に関する講演討論会の講演内容を特集として編集されています。また、粉碎誌も、本号からフルカラーで出版することになりました。本誌につきまして、ご意見、ご要望等がございましたら、何なりと事務局までご連絡頂けましたら幸いです。よろしくお願い致します。

“粉碎” No.58 (2015)

2014年12月15日 発行
出版責任者 横山 豊和
発行 株式会社ホソカワミクロン
大阪府枚方市招提田近1丁目9
印刷 株式会社NPCコーポレーション
大阪市北区天満1丁目9-19
